



孝子千代松の碑

湯本温泉街の西側、JR美祿線・新「千代松踏切」を渡ると、すぐ北側三十メートルばかりのところ、二つの碑が並んで立っている。江戸末期、「親孝行の模範」として賞賛された湯本の住人、千代松の顕彰碑である。向かって右側の碑は、千代松が亡くなってから三年後の、天保十三年（一八四二）五月に建てられたもの。これは病床の母に対する、千代松の孝養の一端に次のように刻まれている。

碑文（注）現代かなづかいに改め、ふりがな・句読点付した。
谷川村孝子千代松、老母に事えねんころにて、常にせおい入湯せしめ、夜寒には、己が肌（かみ）に母の足をあためため（かま）初も側（かた）を離れず、用事ありて他へ行（ゆ）にも、母の呼（よ）声の耳に入るまで幾度となく立



帰りて安否を伺う。其孝行おおよけに聞こえ、たびたびの御褒美を賜りけるは、村人のよく知る所なり。



もう一つの琵琶形の墓碑（供養墓）は、千代松の没後三十四年を経た明治五年（一八七二）七月に建立された。碑の正面には「孝子千代松之墓」とあり、背面には漢文体で、新たにこの墓碑を建てるに至った顛末（てんまつ）が記されている。

碑文の要旨

——千代松は孝心篤く、よく母に仕えた。しかし彼の死後跡継ぎがなく、数十年後には墓地の墓が埋もれてわからなくなる心配がある。そこで新たに、ここに墓を建てた。そして若干の資金を村長に託し、その利息を法要の費用に充て、いつまでも後世に伝わることを切にのぞむ——

原文の作者は、のちに大津郡長や深川村長を務めた横山幾太（号・晴潔）。ちなみに千代松を埋葬した本墓は、ここから少し離れた墓地にある。

（正）

（寄稿・長門市郷土文化研究会）



火災時の問い合わせは

☎ 22-1414

長門地区消防本部・中央消防署

☎ 22-0119

電気による火災発生

～トラッキング現象って何？～

トラッキング現象とは、長い間差し込んだままのコンセントにたまったホコリや水分などにより、電気がショートして火が出ることです。これが原因で火災が発生しています。これから年末に向け、各家庭では大掃除をされる際に、コンセント付近の掃除も忘れずに実施してください。

「たしかめて。火を消してから 次のこと」

—平成13年度 全国統一防火標語—